

## シラバス (授業計画)

授業科目名	開講学年	必・選	単位数	担当教員名
経営科学特論	1・2年生	選択	2単位	福山 博文
授業の到達目標及びテーマ				
データ包絡分析法 (Data Envelopment Analysis) を学び、それを実践的に適用する能力の習得を目指します。				
授業の概要				
<p>本講義では、企業等の組織体の生産効率性を分析・解析するデータ包絡分析法 (Data Envelopment Analysis: DEA と略) について学びます。DEA は、複数生産物での総合評価や改善策の定量的な把握と提案ができるといった特徴があります。講義では、DEA の基本的な考え方について、簡単な計算事例を用いて概説した後で、様々な分析事例を紹介します。</p> <p>私は、エルゼビアが出版している OMEGA : International Journal of Management Science (インパクトファクター : 7.084) という経営科学の英文専門誌の担当編集委員 (Associate Editor) を務めているので、この分野の最近の研究動向などについても、お話したいと思います。私の研究に興味のある方は、次の URL などを参考にしてください。 <a href="https://scholar.google.com/citations?user=BUHhDAwAAAAJ&amp;hl=en">https://scholar.google.com/citations?user=BUHhDAwAAAAJ&amp;hl=en</a></p>				
授業計画				
第1回 オリエンテーション (授業の概要を説明します。)				
第2回 線形計画法モデル1 (数学的準備をします。)				
第3回 線形計画法モデル2 (数学的準備をします。)				
第4回 ソルバーの使い方 (Excel ソルバーについて学びます。)				
第5回 データ包絡分析法 DEA の基本1				
第6回 データ包絡分析法 DEA の基本2				
第7回 分析事例 : 電気事業1				
第8回 分析事例 : 電気事業2				
第9回 分析事例 : 保健医療政策1				
第10回 分析事例 : 保健医療政策2				
第11回 分析事例 : 都道府県の生産活動の効率性評価1				
第12回 分析事例 : 都道府県の生産活動の効率性評価2				
第13回 分析事例 : 金融1				
第14回 分析事例 : 金融2				
第15回 レポート提出課題について				
第16回 まとめ				
履修上の留意点、準備学習等 (事前・事後学習)				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ EXCEL の基本的操作を習得していること (高度のレベルでなくてもよい) を前提に講義を進めます。</li> <li>・ 報告担当者は、配布用レジュメを作成すること。</li> <li>・ 次回の授業範囲を十分に予習し、講義に臨むこと。</li> <li>・ 事前に配布された資料がある場合には、熟読して講義に臨むこと。(2.0h)</li> <li>・ 事後学習として受講ノートを作成すること。(2.0h)</li> <li>・ 数学は初歩的レベルから始めるので、高度な数学的知識は必要ではありませんが、受講者は数学が嫌いでないことが重要です。</li> </ul>				
テキスト				
発行予定の教科書(刀根薫編著)が講義に間に合えば、この教科書を使用します。発行された場合、教育版のソフト DEA-Solver を利用可能となる予定です。				
参考書・参考資料等				
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 刀根薫『経営効率性の測定と改善—包絡分析法 DEA による』日科技連出版社、1993、ISBN978-4817150226</li> <li>● Wade D. Cook and Joe Zhu (森田浩 訳)『データ包絡分析法 DEA』静岡学術出版 ISBN978-4-86474030-2</li> </ul>				
成績評価の方法・基準				
方法 : 課題レポートの評価 (50%)、発表・プレゼンテーションの評価 (50%)				
基準 : 学んだ数理モデルを理解して、実証研究ができるようになる。				